

# 今、何の病気が流行しているか！

## 【感染症発生動向調査事業から】

令和元年5月6日（月）～令和元年5月12日（日）〔令和元年第19週〕の感染症発生状況

第19週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 流行性角結膜炎でした。

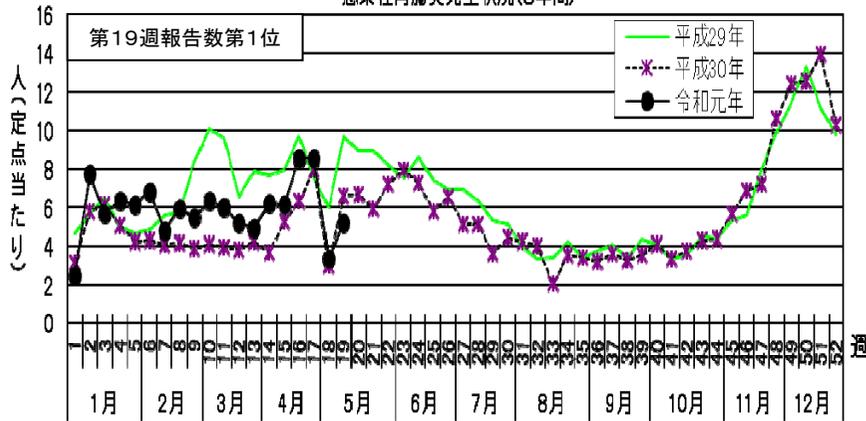
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は5.16人と前週（3.35人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.32人と前週（1.24人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

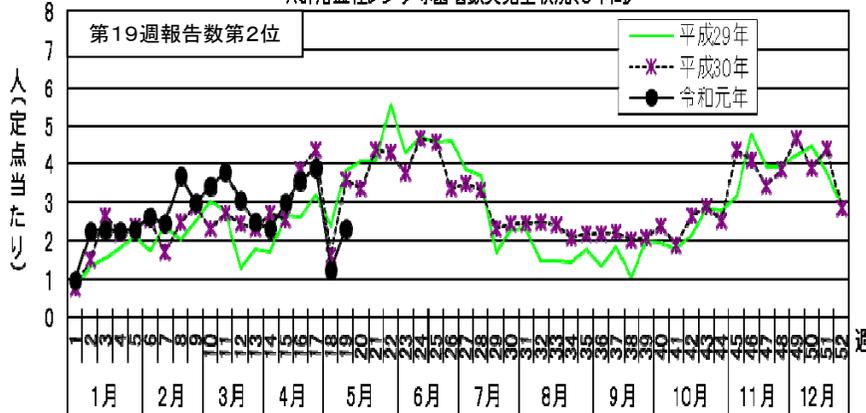
流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は1.22人と前週（0.00人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



感染性胃腸炎発生状況(3年間)



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況(3年間)



## これから気をつけたい感染症～咽頭結膜熱～

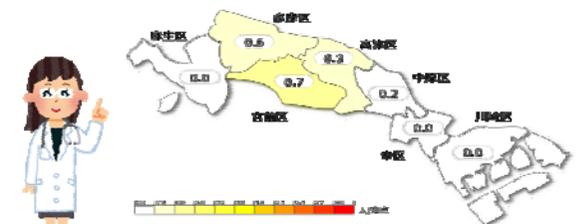
咽頭結膜熱はアデノウイルスを原因とする感染症で、通常初夏に流行します。川崎市では、令和元年第19週（5月6日～5月12日）の定点当たり報告数が0.27人となり、5月以降、特に宮前区、多摩区、高津区で報告数が増加しています。アデノウイルスは感染力が強く、飛沫や接触により感染します。保育園や幼稚園などの集団施設では、手洗いなどの予防対策を徹底しましょう。

なお、インフルエンザについては、令和元年第18週（4月29日～5月5日）の定点当たり報告数が0.86人となり、流行の開始の目安である定点当たり1.00人を下回ったため、非流行期となりました。

川崎市における咽頭結膜熱発生状況  
—令和元年と過去5年間平均の比較—



川崎市における咽頭結膜熱分布マップ(令和元年第19週)



### 咽頭結膜熱とは？

#### 【潜伏期間】

5～7日間

#### 【主な症状】

突然の発熱（39℃前後）、喉の痛み、結膜充血、目の痛み、目やになど

#### 【予防方法】

- 流水や石鹸による手洗いを徹底する。
- タオル類やおもちゃの共用は避ける。
- プール利用前後にシャワーを浴びる。

